

とびっくす

トピックス

「卒業生」経験語る

角田市民が挑戦したいことや関心事について学びを深める「かく大卒」(角田市教委主催)のオープンキャンパスが7月22日、市市



民センターであった。写真

角田

市民ら約50人が参加。卒業生が登壇し「仕事などのバックボーンに関係なく、輪が広がる」「いい意味で変な人が多く楽しい」「1人では限界があるが、仲間がいると見える景色が変わる」などと経験を語った。かく大卒は、自分のテーマを深掘りする「チャレンジラボ」と、農業など特定のテーマを学ぶ「学部」、気楽な対話の場「ラウンジ」からなる。4期目の今年は具体的な活動をサポートす

被災者と児童交流

大和

東日本大震災後に大和町に移り住んだ宮城、福島両県の被災者らでつくるグループ「ひまわりの会」と町社会福祉協議会が、大和町吉岡の町保健福祉総合センターで、地元の子どもたちと交流会を開いた。写真。7月24日にあり、同会の会員と社協の職員計10人が参加。社協が用意した機械でかき氷を作り、町吉岡児



童館に通う小学1〜4年の児童約80人に振る舞った。子どもたちはイチゴやメロ

る体制も整えた。8月から来年1月まで複数回開催され参加無料。随

時申し込みを受け付ける。昨年度は市内外から延べ360人が参加した。

味のシロップ、練乳など好みの品を選び、その場で味わった。コロナ禍で、地元の子どもたちとの交流会を開くのは4年ぶり。会長の遊佐貞子さん(76)は「子どもたちに楽しい思い出をつくってもらい、お世話になっていく地域に恩返しをしたい」と話した。

不動堂小150年回顧

美里

今年開校150年を迎えた美里町の不動堂小(児童472人)で、学用品や写真を通して昔の学校生活を振り返る展示会があった。



写真。木造校舎の上棟式などを撮影した戦前の写真や旧校舎で使われていた児童や教師用のいす、校名を墨書した看板など歴史を物語る約100点を展示した。

PTAでつくる実行委が企画し、7月24〜28日に開催した。不動堂小は10回以上移転し、1977年に完成した現校舎は当時東北一の規模だったとされる。実行委員長の塾経営青木英治さん(44)は「貴重な資料の数々を200周年までつないでいきたい」と話す。展示資料などを収録した記念冊子を9月に発行し、町内の図書館などに置く。展示準備を進める中で、町出身のジャーナリストで文芸評論家の千葉竜雄(1878〜1935年)の名前が記載された明治期の生徒名簿も発見された。

生保と課題に対応

石巻

石巻市とアクサ生命保険は、地域の諸課題に対応するため包括連携協定を結んだ。写真。市内に営業所がある縁で2012年度にがん検診の推進に関する協定を締結しており、取り組みを拡大させる。連携するのは、市民の健康増進や疾病予防、児童・青少年の健全育成、高齢者の見守りなど7項目。市民向け健康セミナーや中高生を対象にしたマネー教室の開催、企業の健康経営支援などを想定する。

市役所で7月24日に締結式があり、斎藤正美市長は「さまざまな分野で連携した取り組みを進めていきたい」とあいさつ。佐藤浩仙台支社長は「事業所や個人客への訪問の中で、健康や金融教育など市と連携してサポートしたい」と述べた。

